

---

# 朝焼け気味な空は

akka

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

朝焼け気味な空は

### 【Nコード】

N4068K

### 【作者名】

akka

### 【あらすじ】

季節は真夏。

主人公は普通の中学校に通う、平凡な男子中学生・祐一。  
卒業式を目前に控えた祐一に、ある衝撃の事実が告げられる……

## 深刻ソウナ顔

キンコーンカーンコーン・・・

ようやく今日の授業が終わった。

あと一週間もないうちに、

中学校の一学期の終業式がある。

僕は、汗を拭きながら家へと歩き出した。

「よっ、祐一。元気ねえな、どうした？」

友人の一樹が勢いよく飛び出してきた。

こんなに暑いのになんでそんなに元気なんだ？

ところで、祐一というのは僕の名前。

「暑いんだよ、毎日。」

ただでさえ家に帰るのが面倒なのに「

僕の家は、学校から歩いて30分ほどの場所にある。

この学校は自転車通学禁止だから、

こんなに遠い僕の家でさえ自転車に乗って行けないのだ。

バタン。

ドアの音が勢いよく跳ねた。

僕の気分は跳ねていないけれど。

でも、僕の「暑い」というだけの悩みより、

もっと深刻な顔をしている人がいた。

僕の両親だ。

僕は自慢じゃないが、問題なんて起こした覚えはないし、

それもまた両親がうなだれるような事件なんて、

もつと起こした覚えがない。

「どうしたの？」

それしか聞く言葉はなかった。

僕の母親は、静かにこう言った。

「 祐一。落ち着いて聞いて。

実はね、この夏の間・・・

そうね、ちょうど祐一が夏休みの頃よ。

お父さんが転勤することになったの。

私たちも引越すのよ。

どこに引越すかというと・・・」

小一時間の長い話が終わった。

僕たち一家は、山奥の村に暮らすことになった。

父は教師をやっているのだが、

ある山奥の小学校の教師が、定年退職したらしく、

代わりの教師として、僕の父を選んだそうだ。

そんな。

せっかく地味な僕に、友達が出来たところなのに。

次の学校で、もう一度友達を作る自信なんてない。

でも、まだ13歳の僕が、一人暮らしなんて出来ない。

どうしようもない問題を抱えながら、僕は眠った。

## サヨナラ、皆（前書き）

この話から読めない言葉が出てくると思いますが、そのうち読み方は分かると思いますので、適当に読んで下さい。

## サヨナラ、皆

「あー・・・突然だが、逢坂が転校することになった。

二学期から学校が変わるそうだ」

衝撃の事実から三日後、先生はその話を教室の皆に話した。

僕はまだ不安と、悲しみでいっぱいだった。

放課後。

「祐一っ。そんな落ち込んだ顔すんなよ。コレ、あるだろ？なっ」

そう言つて一樹は携帯電話を指さしたが、ちよっと待て。

僕は携帯電話なんて持ってない。

それに、もし持ってたとしても、引越す村じゃアンテナの一本も立たない。

要するに、圏外だ。

「そうか。そっぴや、

祐一がケータイ持つてるなんて、聞いたことなかったな」

一樹は困ったような顔をした。

「仕方ないよ。あの村は、電話の線も通ってないんだ。

パソコンぐらいなら使えるかもしれないけど、うちにはない」  
今さら思っただけで、

その村、

田舎どころじゃ済まなそうだな。

小学校や中学校が建ってること自体が不思議なくらいだ。

帰宅部の僕らは、

とりあえず家に帰ることにした。

「お帰り」

母親の声がした。

「ただいま」

スニーカーを脱いで、玄関に上がった。

ペタン、ペタン・・・

「祐一、そろそろ片づけをしておいてね」  
夏休みまで、あと四日。

そして、その次の日、

つまり今日から五日後に引っ越しをするのだ。

その次の日からは、

めまぐるしく毎日が過ぎていった。

学校から僕のモノを全て持ち帰り、

片付けや、段ボールに詰めたり、

とにかく忙しかった。

そして、一学期・終業式の日が来る。

「祐一・・・本当に今日でバイバイなんだね」

「祐一、元気でいろよ」

なんだかんだで皆、僕のことを心配してくれた。

でも、そのせいで、余計転校したくなる。

「じゃあね、バイバイ」

そして僕たちは、嗣螺薙村へ行った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4068k/>

---

朝焼け気味な空は

2010年10月21日22時03分発行